

はじめに

「調べる」では、検索する際の様々な検索方法、情報の信頼性の見きわめ方、災害時の情報収集における適切な情報源の選択など、情報を調べるときの基礎的な内容を学びます。調べ学習は、もっとも利用されている端末活用のひとつだと思います。効果的な情報の検索方法を学び、誤情報・デマに騙されないようにするために、ぜひ調べ学習の前にご活用ください。



上手な検索方法を学ぼう

調べる # 活用スキル # 実技 # 消費者 # つくり手

以前は、「神奈川 観光地」というアンド検索が検索の基本でしたが、最近では「神奈川の観光地はどこですか」といった話し言葉でも文脈を理解できるようになり、検索の精度があがりました。しかし、「神奈川の横浜以外の観光地が知りたい」といったときには、「マイナス検索」を行う必要があります。本教材では、実際にいくつかの検索方法を試してみることで、マイナス検索を学ぶことができます。



インタビューの練習をしよう

調べる # 活用スキル # 実技 # 消費者 # 市民

本教材では、3つのポイント（①相手の顔を見る、②リアクションをする、③ポイントだけをメモする）を意識しながらインタビューの練習を行います。インタビューはあくまで「会話」であることを意識させて、メモばかり見て質問するのではなく、会話の中から次の質問ができるように、動画で振り返りながら練習するようにしましょう。



情報の信頼性

調べる # 情報モラル # 2分類 # 消費者 # 誤情報・デマ

WEB上には、正確な情報を公開しているWEBサイトもあれば、誤った情報を公開しているWEBサイトもあります。本教材では、「本当にその情報は信頼できるのかな?」ということ学びます。特に、誰が言っている情報なのかという発信者のことを考えることで、いったん立ち止まり確認することの重要性について学びます。



災害がおきた時の情報収集

調べる # 情報セキュリティ・トラブル対応 # 2分類以上
消費者 # 市民 # 誤情報・デマ

本教材では、災害がおきた時をテーマに、テレビ、本、SNSのそれぞれの特性を考えます。SNSはもっともはやく身の周りの情報を得ることができますが、必ずしも正確とは言えません。テレビはある程度信頼性の高い情報を得ることができますが、身の周りの情報ばかりではありません。本は速報性はありませんが、例えば過去のことで信頼性の高い情報を得ることができます。



まとめ

調べる際には、様々な情報の信頼性を見きわめる必要があります。こうした際には、ぜひ「だいふく」を意識させてほしいと思います。「㉮」は、「誰が言っているのか」、「㉯」は、「いつ言ったのか」、「㉺㉻」は、「複数の情報を確かめたのか」です。日常場面だけでなく災害時などでも「だいふく」を意識して、情報を見きわめることが重要になります。



これからの社会では

これからの情報社会では、「情報を自分で検索しなくとも、適切な情報が自動的に送られてくる」と言われています。現在でも、例えばショッピングサイトでは、これまでの本の購入傾向から「オススメの本」などが自動的に提供されるようになっています。しかし、オススメ情報の自動提供は、「新しい出会い」ができないというリスクもあります。図書館に出かけて「ふと目についた」といった経験が自分の興味も広げる可能性があることも意識しておく必要があります。

つくり手 # レコメンデーション



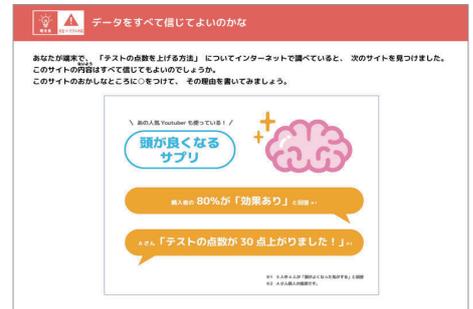


考える

データをすべて信じてよいのかな

考える # 情報セキュリティ・トラブル対応 # イラスト
消費者 # 誤情報・デマ

本教材では、データを使って考えるために、データの読み解き方を学びます。データはときに都合よく使われます。例えば、「80%が効果がある」と書いてあると、高い効果を示しているように思いますが、実は5人中4人であり、母数が少なく信頼性が低い可能性もあります。また、特定の1人の都合のよいデータ（チャンピオンデータ）を示すこともよくあります。



まとめ

考える際には、様々な情報を収集し、整理しておくことが重要です。それを整理するためには、端末は非常に有効な手段です。しかし、「考える」ときは、端末よりも紙とえんぴつの方が考えやすいときもあります。自分の特性に気づかせ、どちらがよいのかを選択できるようにしておくこともICT活用のポイントです。



これからの社会では

つくり手 # AI (人工知能)

AI (人工知能) は、「考える」ことが得意なのでしょうか。実はAIには「得意なこと」も「不得意なこと」もあると言われています。例えば、たくさんの情報を分析し次の展開を予測することなどは、AIが得意なことのひとつです。しかし、「何を考えればよいか」自体を考えることや、芸術的なことを考えたりすることは、まだまだ人間の方が得意なことになります。





共有する

変なコメントが書き込まれたら

#共有する #情報セキュリティ・トラブル対応 #1つ選択
#消費者 #市民 #コミュニケーショントラブル

本教材では、変なコメントが書き込まれた場合の対応について学びます。ここで重要なのは、なにかあったらスクリーンショットで記録しておくということです。「記録されてしまう」ということが抑止力に働くことになります。また、その場で言いあいにならないことや少し時間をおいておくこと、先生に報告することなども意識させたいポイントです。



まとめ

端末を使って共有する際には、相手のことを意識する必要があります。相手のことを意識しながら、伝えるときだけでなく、受け取るときにも、たとえ相手から「イヤな言葉」を書かれたとしても、もしかしたら相手はそんなつもりで伝えののではないかもしれないと考えることも重要です。このコミュニケーションを学ぶには、ぜひ45分版の「自分と相手とのちがいが」も活用をご検討ください。



これからの社会では

#つくり手 #五感の共有

現在、文字や音だけでなく、「におい」や「さわり心地」、「痛み」、「味」などの共有についての研究が進められています。例えば、遠隔医療ではこうした五感の共有はとても重要になりますし、遠隔教育においても五感を共有することができれば、様々な学習が可能になります。しかし、誰もが自由に五感を共有できるようになると、例えば、「変なにおい」や「痛み」を誰かに送ってしまうなどのトラブルが問題になるかもしれません。





はじめに

「つくる」では、上手な資料のデザインの方法、著作権、「なりすまし」への対応など、端末を使って何かをつくるときの基礎的な内容を学びます。特に、端末を使って資料やWEBサイトなどを自由に作れるようになったからこそ、他者の著作権をきちんと守ることはもちろん、自分の著作権をきちんと守ることも重要になります。



上手なデザインの方法を学ぼう

つくる # 活用スキル # 並び替え # 消費者 # 市民

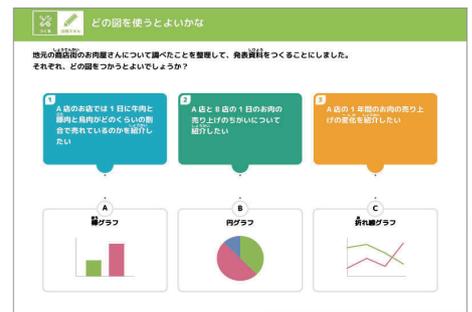
本教材では、わかりやすく、見やすい資料をつくる際のポイントについて学びます。どうしても、調べたことや考えたことは全部伝えたくてなりませんが、たくさんの情報を書くよりも、重要な情報を選んで短い言葉で伝えたり、絵やイラストなどが入ると、相手に伝わりやすくなります。また、資料を読むときの視線移動なども学ぶことで、わかりやすく、見やすい資料を作ることができます。



どの図を使うとよいか

つくる # 活用スキル # 複数選択 # 消費者

発表資料をつくる際に、図（グラフ）を上手に活用するためには、その種類と特性を意識する必要があります。基本としては、本教材で扱ったように、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフと、比較、割合、変化を意識させるとよいでしょう。本教材を導入として、身近な図（グラフ）を探させ、その種類と特性を分析するようなワークもおすすめです。



写真や動画を使いたいときは

つくる # 情報モラル # 2分類 # 消費者 # 市民 # 著作権の侵害

本教材では、公開されている写真や動画は、基本的にきちんと許可を取る必要があることを学びます。ただし、違法サイトに公開されているものは、自分で楽しむ目的であっても違法と知りながらダウンロードすることは禁止されています。特に、つくった作品をたくさんの人に公開する際には、きちんと著作権を確認するとともに、署名など自分の作品を守るための工夫も行ってほしいと思います。





「なりすまし」を防ぐには

つくる # 情報セキュリティ・トラブル対応 # ストーリー
消費者 # 市民 # なりすまし

本教材では、他の人になりすまして、つくった作品を改変したり、勝手にコメントしたりするトラブルを防ぐ方法を学びます。特に、誰かのIDとパスワードを勝手に使って誰かになりすますことは、「不正アクセス禁止法」の違反になることはきちんと伝えてほしいポイントです。また、なりすましを防ぐためには、適切なパスワード管理が求められることを意識させます。



まとめ

端末を使って何かをつくる際には、著作権を意識する必要があります。著作権を侵害した場合は、10年以下の懲役または1,000万円以下の罰金（またはその両方）が科されることとなりますが、なぜそのような重い罰則かと言えば、それだけ新しいアイデアや作品をつくることを重視しているからです。ぜひ新しいアイデアや作品をつくることの重要性を考えさせてほしいと思います。



これからの社会では

つくり手 # クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

ネット上の作品は基本的に著作権で保護されていますが、自分の作品を広く使ってもらうために、「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません」という意思を表示するためのツールが、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CCライセンス）です。こうした新しい著作権のルールづくりは、国際的に議論されてます。ただし、勝手に他者の作品にCCライセンスを貼ってしまうことなどが問題視されています。



はじめに

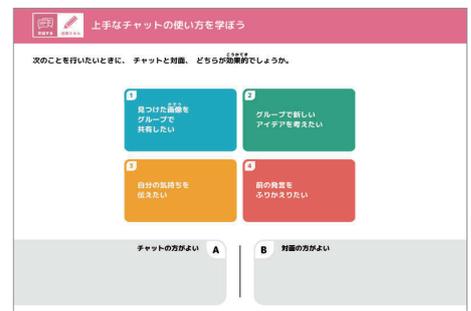
「交流する」では、上手なチャットの使い方、チャットを使って議論するときのマナー、「問い合わせフォーム」に入力するときの対応など、端末を使って交流するときの基礎的な内容を学びます。端末を使うと、クラスだけでなく世界中の人と交流することができます。ぜひ上手に使うスキルを身につけさせ、子どもたちの学びの世界を広げてほしいと思います。



上手なチャットの使い方を学ぼう

本教材では、対面とチャットの使い分けについて考えます。確かに、端末を使えば、すぐに誰とでも交流することができますが、気持ちを伝えたり、新しいアイデアを考えたりするときには対面の方が伝えやすいという面もあります。どちらがよいのか、場面によって使い分けられる力を育ててほしいと思います。

交流する # 活用スキル # 2分類 # 消費者



ファシリテーターをやってみよう

効果的に話し合いをするためには、ファシリテーターの存在が重要になります。話し合いでは、どうしても自分の意見を言うことに注力しがちですが、自分が意見を言うだけでなく、いかに「参加者に意見を言ってもらおうか」という視点を意識させることは、話し合いの幅を広げ、いろいろな意見に触れる機会を増やすことにもつながります。日常でも「意見を言った人」だけでなく、「意見を言わせるように仕掛けた人」をほめてあげると効果的です。

交流する # 活用スキル # 実技 # 消費者 # 市民



チャットで議論するときは

本教材では、グループチャットで議論するときのマナーを考えます。こうした議論のマナーは、確立したマナーを押し付けるだけでなく、子どもたちが自分たちでマナーを考えていくことが重要になります。それぞれの感じ方の違いを意識しながら、自分の気持ちやマナーを押しつけることなく、話し合いながらマナーを考えることを意識させてください。

交流する # 情報モラル # 1つ選択 # 消費者 # 市民 # コミュニケーショントラブル





共有する

「問い合わせフォーム」に入力するときは

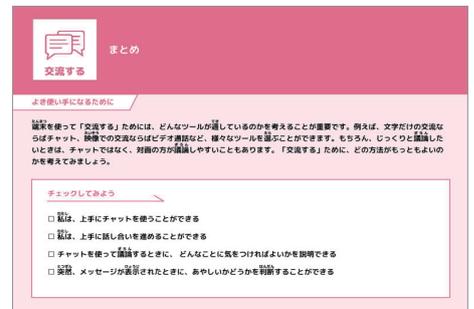
学校外の人にコンタクトをとる際に、「問い合わせフォーム」から連絡をする必要もあります。しかし、あやしいサイトでは、この問い合わせフォームやバナーなどから個人情報を抜き出そうとしている場合もあります。本教材では、「問い合わせフォーム」に入力するときに、「あやしいな」と見きわめるためのポイントを学びます。

交流する # 情報セキュリティ・トラブル対応
イラスト # 消費者 # 個人情報の漏洩 # 架空請求



まとめ

現在、電話、メール、SNS、ビデオ通話など様々な交流ツールが使われるようになってきました。こうしたツールを選ぶ際は、その特性を意識する必要があります。例えば、表情を見た方が伝えやすい場合もあれば、声だけや文字だけで伝わる場合もありますし、今すぐに見てほしいのか、後で見てもらえればよいのかによっても使うツールが変わってきます。特性を踏まえて適切なツールを選ぶ力を身につけさせてほしいと思います。



これからの社会では

最近、「製品の使い方」などの問い合わせ対応では、チャットボットでの対応が増えてきました。「よくある質問」を読めば解決できるような対応には、チャットボットが答えることによってサポートセンターの仕事を減らしています。今後も、たとえば単純な知識を伝える内容では、チャットボットが活躍することが増えると考えられますが、自分が入力した内容はデータとして収集されているという点も意識する必要があります。

つくり手 # チャットボット



はじめに

「家で使う」では、家庭での自主練習の方法、「学習の目的」の判断、家庭のルールを自律的に守る方法など、家庭で端末を使うときの基礎的な内容を学びます。家庭では、教師や友達の目がないので、より自律的に端末を使うことが求められます。家庭でも上手に活用できるようになるように、保護者とも連携しながら取り組んでほしいと思います。



上手な練習の仕方を学ぼう

本教材では、動画を使った自習練習の方法について学びます。特に、発表の練習などは、なかなか学校では恥ずかしくて練習できないこともあります。家庭ではじっくりと練習することができます。その際に、構図や明るさ、手ブレに気をつけながら練習することで、より質の高い練習をすることができます。ぜひ実際に試しながら取り組んでいただきたいと思います。

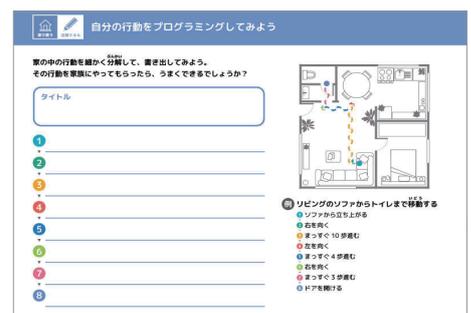
家で使う # 情報モラル # 2分類 # 消費者 # 学習目的外での利用



自分の行動をプログラミングしてみよう

プログラミング的思考は、コンピュータを使わないアンプラグドな方法でも学ぶことができます。本教材はその一例で、自分の行動を分解し、順序だてて考えるというプログラミング的思考を学びます。「少し」「ちょっとだけ」などの言葉を使わないようにすることの難しさとともに、コンピュータではこうしたあいまいな指示では動かないという点にも気づかせることがポイントです。

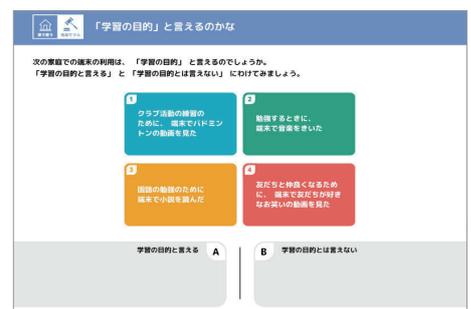
家で使う # 活用スキル # 実技 # 消費者



「学習の目的」と言えるのかな

交流する # 情報モラル # 1つ選択 # 消費者 # 市民 # コミュニケーショントラブル

学校配布の端末は、「学習の目的で使う」とされていますが、「学習の目的」とは人によってイメージが違い、揺れやすい言葉でもあります。本教材では、家庭での端末利用について、「どこまでが学習の目的か」を考えます。学習の目的について、先生が細かく決めることは難しいので、「学校の授業や休み時間だったら？」と考えさせると子ども自身が判断しやすくなります。



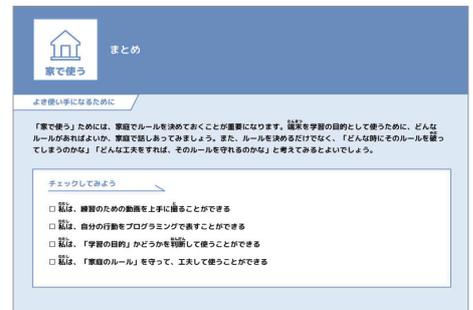
つついルールをやぶってしまうときは #家で使う #情報セキュリティ・トラブル対応 #ストーリー #消費者 #市民 #ルールを破る

ルールを決めてもつつい破ってしまうことはよくあります。その際に、「ルールを守りなさい」と他律的な指導をしたとしても、その効果は短期間でしかありません。「なぜルールを破るのか」、「どうすればルールを守ることができるのか」を考えさせ、具体的なスキルとして習得させることも重要な視点です。ぜひ自律を目指したルールづくりの指導を行っていただきたいと思えます。



まとめ

家庭で使うためには、当然ですが保護者との連携が重要になります。その際には、どのような家庭のルールがあるのかを共有することができると、他の家庭の様子がわかり、ルールづくりの参考になります。また、ルールを守ることができない時の対応なども共有しておく、「ルールを守りなさい」という一方的な他律的指導に終始せず、子どもと一緒に考えるきっかけになるかもしれません。



これからの社会では

これまでは、PCで作成したファイルはそのPCに保存されており、ファイルの移動にはUSBメモリなどが必要でした。しかし、クラウドを利用することで、職場のPCでも家のPCでも同じファイルを共有することができます。今のスマホやタブレット向けのアプリなどは、ほとんどがクラウドを活用しています。こうしたクラウドを利用したサービスやアプリは便利ですが、大切な情報が手元のスマホやタブレットだけでなく、ネット上に保存されることで個人情報の漏洩などのリスクもあります。

#つくり手 #クラウド



「未来を担う子どもたちにインターネットの楽しさを！」この思いから、1997年にYahoo!きっずが誕生しました。教育現場や家庭で広く活用していただくことで、正しいインターネット利用の促進や、子どもたちの未来の可能性を大きく広げるお手伝いができることを、目指しています。



コンテンツの一例



Yahoo!きっず検索

フィルタリングを行い、子どもたちにとって不適切なページが表示されない仕組みを導入しています。キーボードのタイピングに不慣れなお子さま向けに、マウスで言葉を選択できるソフトキーボードも用意しています。



マンガで学ぼうAIガイド

AI（人工知能）について、マンガを使って楽しく学べるコンテンツです。最近話題になっている生成AIを含めたAIのしくみや、身近な活用例、利用についての問題点などを掲載。ワークシートも用意しているので、授業でもご利用いただけます。



ココカラ学園

ココロとカラダのことを学べる「ココカラ学園」 「こころ」や「からだ」を知ることは、生きていくためにとても大切なこと。教員の皆様向けのワークシートや動画もご用意しております。



他にも多数のコンテンツを用意しています。

<https://kids.yahoo.co.jp/>

やふーきっず

検索

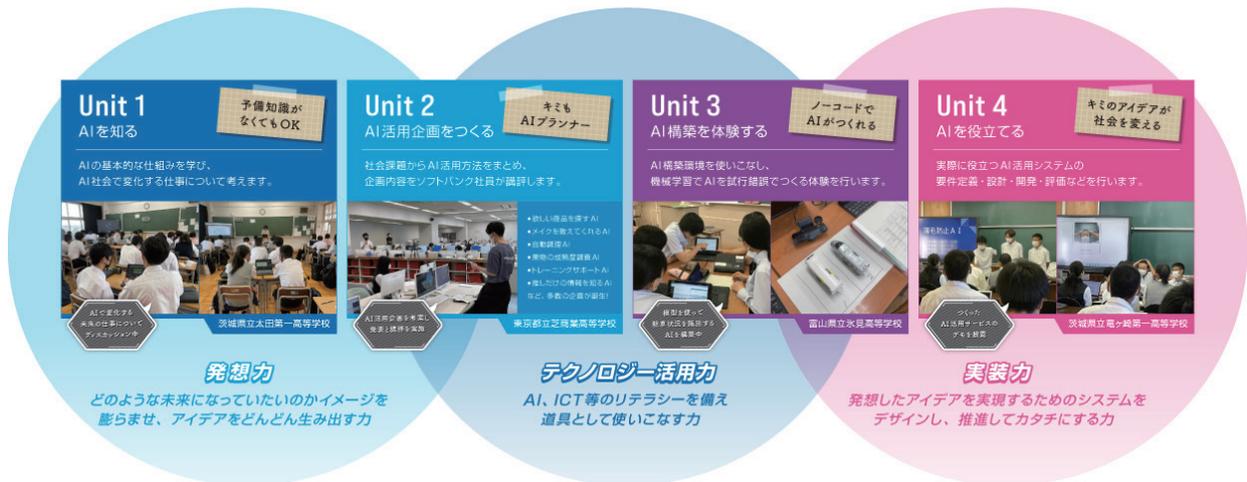


AI Challenge

探究学習でAI活用人材を育成する

日本は超高齢社会・労働人口減少など、さまざまな社会課題を抱えており、これらを解決するためにソフトバンクでは、AI活用人材の育成に取り組んでいます。

AIチャレンジは、探究に求められる「発想力」「テクノロジー活用力」「実装力」の3つの力を身につけることで、これからのAI社会を牽引する次世代の担い手たちを育成する教材です。



ハルシネーションを回避

生成結果は参考の一つに過ぎず、最終的には自分で判断する

もっともらしい

嘘を見抜く

ファクトチェック
(生成された情報の真偽を確かめる)

- どの時点の情報が確認する
- 検索して事実を確認する
- 検算して数値を確認する

※ 他者が発信した情報のファクトチェックについては第2部で解説

Copyright © SoftBank Corp. All rights reserved. 58

AIチャレンジの各Unit内で積極的に用いる

ChatGPTを活用して探究的な学びのクオリティを高める

AIチャレンジ AI活用実践コース	Unit 2 AI活用企画をつくる	課題をロジックツリーでまとめる	
		プレゼンテーション資料をつくる	
	Unit 3 AI構築を体験する	AI活用企画を講評する	
		予測系AIのサンプルデータセット生成	
	Unit 4 AIを役立てる	学習テーマに応じた確認問題と解説	
		AI用語の解説	
		プロジェクト推進アシスタント	
		ソースコードの解説	
			システム評価アンケート項目の作成

Copyright © SoftBank Corp. All rights reserved. 3

AIを知る

社会で使用されているAIに関する知識を正しく備え、AIによって変化する職業や仕事について理解します。また、生成AIによるフェイク情報などトラブルの危険性に対し、ファクトチェックの方法とAI倫理を学びます。

AIを使いこなす

実際にAI構築環境を使用してAIをつくる体験と、社会課題に対してAI活用システムを企画・設計・実装・評価する一連の流れで、探究学習に必要なスキルの習得を行います。さらに、これらの活動の中で生成AIを活用し、個別最適な学習支援を得る方法を身につけます。



<https://www.softbank.jp/corp/sustainability/special/ai-challenge/>

全国统一 スマホデビュー検定



考えよう 家族みんなで スマホのルール

私たちは子供たちの
情報モラル育成に取り組みます



文部科学省

この検定は、スマホデビューする上でぜひとも知っておいてほしい知識を、身につけてもらうための検定です。

合格を目指し、ぜひ親子でチャレンジしてみてください！

受験はこちら！（受験料無料）



<https://ymobile.jp/s/Ew7uH>

監修者紹介



藤川大祐

千葉大学教育学部 教授・教育学部長
文部科学省「ネット安全安心全国推進会議」委員や内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」座長代理などを歴任。メディアリテラシー教育の第一人者。

問題のイメージ

00:21.90

インターネットを使っていたら、急にこのような画面が出てきました。そのときにすべきこととして正しいものを選んでください。



- A ウィルスを取り除くためすぐにダウンロードする
- B 画面に出ていた問い合わせ先にメールする
- C その画面を開いたままおうちの方に相談する

活用型情報モラル教材



ワークブック

ながさき



スタンダード

2024

活用の手引

GIGAワークブック ながさき
活用の手引

初 版

発 行 日 2024年3月31日

制 作 長崎県教育委員会
一般財団法人LINEみらい財団
静岡大学教育学部准教授 塩田真吾
常葉大学教育学部講師 酒井郷平
アラサキデザインスタジオ

協 力 ソフトバンク株式会社
LINE ヤフー株式会社

LINE みらい財団

SoftBank

YAHOO!きっず
JAPAN

- ・本教材は、東京都教育委員会と一般財団法人LINEみらい財団との共同研究による成果物「SNS東京ノート」をベースとしてGIGAスクール構想に対応した内容を加えています。
- ・本教材の著作権は、一般財団法人LINEみらい財団が保有しています。
- ・本教材は、児童・生徒・保護者への啓発・教育を目的として、無償で提供する場合に限り、自由に利用することができます。これ以外での2次利用はおやめください。